

日韓の対立は深刻だが、若い世代の交流はむしろ拡大するべき

ホ・ドンハン（許棟翰）福岡県立大学教授

- ・日韓青年フォーラムが8月19日から23日まで釜山にて開催
- ・「釜山経済と観光活性化の方策」をテーマとして、韓国の4大学、日本の7つのゼミ、合わせて130人以上が参加

「貿易制裁で日韓の対立は深刻ですが、若い世代はむしろ交流を拡大しなければなりません。のちにこの世代から大統領や総理が生れるのだから、若いときからコミュニケーションや協力の価値を学ばないとまずいじゃないですか。」

日本の貿易制裁に触発された日韓の経済戦争が起き、うわべだけの交流が続々と中断されるなか、19日からの5日間、釜山にて両国の若い世代130人余りを集めて開催される「日韓青年フォーラム」が注目されている。

このフォーラムの創始者は、釜山出身のホ・ドンハン福岡県立大学人間社会学部公共社会学科教授。大会に先立ち、話を聞いてみた。

日韓青年フォーラムは、2000年ソウルで始まった。ちょうど新しい世紀の幕開けに当たり、これからは若い世代のコミュニケーションが両国の未来に不可欠だと、ホ教授が判断したためだ。日韓それぞれで大学教授を経験していたホ教授は、いかに若い世代の意思疎通が重要であるか認識していた。当時、九州国際大学経済学部の教授だったホ教授は、交流相手として母校の漢陽大学を選んだ。

フォーラムを通して交流を支えたのは日本における「ゼミ」というセミナー授業だ。これはセミナーをドイツ語で発音した日本の造語で、大学の2、3年に始まり卒業論文を書き終えるまでの間、ひとりの教授から指導を受けるという教育プログラムである。

「同じゼミの学生たちは、社会に出たあとも固く結束しています。せっかくフォーラムをするのだから、日韓の学生たちもゼミ生たちのようにずっと仲良くできたら、というのが私の希望です。」

初めての大会は2つの大学で50人ちょっとの参加だったが、その後少しずつ参加者が増え、今年は韓国の4大学と日本の7つのゼミ、合計130人余りにまで達した。それとともに進行の仕方も大きく変わっていく。初めのうちは論文を発表するスタイルだったが、今は共通のテーマを決め、それを両国の参加者が現地調査しプレゼンテーションを行なうという、お互いの「協力」が欠かせない形態になっている。

同じテーマを日韓でそれぞれ違う視点でとらえるため、予想だにしない解決策を見いだすこともある。「だからこそこれは、学生たちが協力とコミュニケーションの価値を体得するまたとない機会なんですよ。」と、ホ教授は語る。

テーマは今までに「電子商取引の未来」「iPhone の市場戦略とモバイル市場の展望」など典型的なもののほか、「韓流ブームについて」「特産物を利用した町の復興」「韓国と日本の水資源の活用」「高齢化時代の地域経済活性化」「人事採用の新しいパラダイム」など、若い世代が未来を見据えるうえで気になるものを扱っている。

「去年のソウル大会は『ソウルの観光地を再評価してみよう』というテーマでした。私としては、観光産業の壁になっている障害を探しだして解決するまでの過程に興味がありましたね。」とホ教授。

日韓青年フォーラムは 10 回までソウルで開かれた。釜山ではまず 2009 年（第 11 回）、そのあと 2011 年と 2015 年（安東と共同開催）と続いていく。20 年の歴史にもかかわらず、日本では 2017 年の神戸開催が初めてだ。ホ教授は「これからは釜山、日本、ソウルを順番に開催地にするつもりです。」と語っている。

今年のテーマは「釜山経済と観光活性化のための方策」である。日韓の貿易戦争について扱いたかったとのことだが、数か月前に選定したテーマなので変えることが出来なかったそうだ。

釜山出身のホ教授は、漢陽大学を卒業したあと日本で修士と博士の学位を取った。その後、九州国際大学教授として勤めたあと 2008 年に明知大学に移り、2015 年現職に着いている。

2018 年 8 月 20 日 釜山日報より